

小学校教育支援事業

テーマ	外国語教育を通じた小・中学校の連携
市民生活の視点	生きがい
政策	学ぶ
施策	こころ豊かな児童・生徒を育みます
所管部・課	教育振興部学校教育室学校指導課

1 事業課題及びディスカッションに求められたもの

小学校・中学校の連携をより一層図る指導方法やカリキュラムの連携について

2 ディスカッションの全体まとめ

ディスカッションを通じて明らかになった課題は、「（小学校における）外国語活動と（中学校での）外国語教育が混同され、小学校での外国語教育が期待される」「中学校における外国語活動のさらなる向上」であった。

外国語活動が中学英語の予習と期待・誤解されてしまうことには、外国語活動の意義（外国語に馴染み、外国語の利用を楽しむことで、外国語教育の動機をあげる）を保護者や地域に伝えることが効果的ではないか。保護者説明にとどまらず、例えば、学校行事において、参観日やオープンスクールの活用、保護者だけではなく地域ぐるみの周知も行うなど、外国語活動の意義を伝える機会を作ることが期待される。

中学校での外国語活動の拡充には、総合学習の時間の活用がありえる。また、地域や国際交流系団体と連携した校外活動など外国語を活用する機会の拡大などが期待される。外国語活動と外国語教育の移行がスムーズに行えるよう同じALTに来てもらうよう工夫すると効果的ではないか。

3 個別検討事項

入学説明会、参観日、オープンスクールなど、様々な機会を捉えて、外国語活動のDVDの視聴や、模擬授業などを行う場面を設定し、外国語活動とはどのようなものを伝えていく。

多文化共生、多文化にふれる場として、国際交流を行っている団体等とも連携を図ると、学外での外国語活動の実践の機会も拡大するのではないかと考える。

ALTが来る回数は限られているので、できるものについては1クラスで行う外国語活動の授業を一部の回は2クラス合同で行うなどし、ALTが来る機会を増やしたり効果的にしたりする工夫をすべき。

中学2年生を対象に実施している習熟度アンケートにおいて、外国語活動についての項目を追加するなど、効果の検証を行うことも必要である（今年度の中学2年生が小学校外国語活動の1期生であり、彼らが英語にどんな印象を持っているかが小学校の外国語活動の効果をはかる指標といえる）。